

首都高速道路の大規模更新・修繕及び機能強化に関する技術検討委員会(第5回)

議事要旨

日 時: 2022年9月20日(火) 15:30~17:15

場 所: 首都高速道路株式会社 本社 9階大会議室

出 席: 委 員 長 前川 宏一(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授)

委 員 砂金 伸治(東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)

石田 哲也(東京大学大学院工学系研究科 教授)

小根山 裕之(東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)

白戸 真大(国土交通省 国土技術政策総合研究所 室長)

村越 潤(東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)

オブザーバー 森本 励(日本高速道路保有・債務返済機構 理事)

※石田委員はリモートにより出席

議 事:

1. 審議を踏まえた追加対策(案)
2. 羽田トンネルの抜本的な対策の実施に向けた検討
3. 橋梁の抜本的な対策の実施に向けた検討
4. 今後の大規模更新・修繕工事に備えた機能強化の検討

(主な意見)

- ・ 首都高は、首都圏の交通を支えるインフラとして、半世紀前に開通後、次の半世紀においても性能やサービス水準を確保するために、更新を進めるべきではないか。その上で、更新により国民や社会経済にとって良い影響を与えること、言い方を変えれば、いま、更新を行わなかった場合のリスクについても言及すべきではないか。
- ・ 羽田トンネルにおいては、本体の長寿命化や機械設備等の耐久性向上、トンネル防災などを踏まえた対策内容となっており、検討の方向性としては良いのではないか。本対策内容のように、橋梁と兼ねて更新するというのは世界的にも例がないのではないか。
- ・ 非常に重要な首都高のネットワーク機能を維持し、将来にわたる首都高の安全安心のために更新を行うことは非常に重要ではないか。そのうえで、更新にあたっては、最先端の技術を活用することなども必要ではないか。
- ・ 広域的なう回誘導については、料金施策や広報による利用者への周知が重要。また、ジャンクション部などの機能強化にあたっては、う回に伴う交通流動の変化に留意が必要ではないか。
- ・ 更新の実施にあたっては、単に元の構造に戻すだけでなく、機能向上など付加的な効果についても明確にすべきではないか。また、維持管理の向上につながる対策についても具体的に検討していくべきではないか。
- ・ 羽田トンネルを更新することで、渋滞対策としても寄与するなど、機能強化が図られることについてもしっかり説明していくべきではないか。

以 上